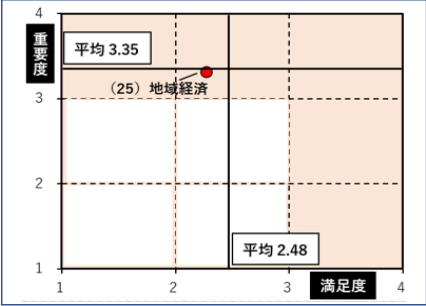


【施策】 4-1 地域経済

【めざす姿】 地域で循環する経済をつくる

■まちづくりアンケート調査結果(点)						年代別内訳(点)			
指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.27	0	0	0	2.48	2.79	2.27	2.21	2.22
今後の重要度	3.31	0	0	0	3.35	3.41	3.34	3.36	3.24



■基本事業(具体的な取組)CHECK①

基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組(PLAN)	事務事業(DO)	効果検証(CHECK)
①	産業振興	地域内で循環する経済を作ります	・部内各所属が横断的に連携する(仮称)産業プロモーションプロジェクトチームを設置します。 ・多様な主体が連携、協働できるよう、伊賀市産業振興懇談会の開催を始め、地域経済に関する情報や意見の交換ができる場を創出します。 ・(仮称)産業振興計画を策定し、市内の経済循環の活性化を図ります。 ・産業振興条例の認知度を高め、その理念を広く市民に周知します。	整理番号 事業名 参照するレコードがありません。 ※産業振興一般の事業に含まれます	[効果が出ている点] ●(仮称)産業振興計画を(仮称)産業振興アクションプランとして策定することし、部内における事業の進捗や課題、今後の方向性に関する洗い出しに着手しました。 [新たな課題] ●プランの根拠となる産業振興条例は行政のみならず、あらゆる事業主体に関する役割等が規定されているため、プランの策定に向けては多様な主体の意向や実態の把握が不可欠であり、中間支援団体となる商工団体等の協力を得ながら進める必要があります。
②	公共調達のあり方	働く人や地元事業者を豊かにするとともに、地域経済の活性化を図ります	・関係団体等からの意見を集約し、課題等を整理したうえで、実情に応じた公契約条例を制定します。 ・条例の理念を広く周知するとともに、モニタリング等を実施し、効果的な運用を図ります。	整理番号 事業名 参照するレコードがありません。 ※令和8年度は一般管理経費の事業に含まれます	[新たな課題] ●審議会を設置して条例検討を行うこととなったため、全体のスケジュールを変更する必要が生じました。

◆令和7年度外部評価

項目	評価		所見
(1)効果検証の適正性	B	一部見直しの必要あり	施策が地域内経済循環にどの程度結びついていくのかについて、より具体的な検証が必要である。
(2)事務事業改善案の妥当性	B	一部見直しの必要あり	基本事業①「産業振興」(仮称)産業振興アクションプランの策定について、事務事業改善案で「現状の整理を行います。」「市内事業者等の実情を調査します。」とあるが、いつまでに終え、その後どのように進めていくのか記載した方が良い。また、(仮称)産業振興アクションプランの概要についての説明があると理解しやすい。
(3)施策の進捗状況	C	やや悪い(やや進捗が悪い)	地域経済循環の根幹に関わる部分であるため、担当部署だけでなく庁内全体で協力し、早期の策定と実行に向けた後押しを望む。

■横断的な取組の進捗CHECK②

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	産学官連携施設「ゆめテクノ」を拠点として、三重大学や文化都市協会による「こども大学」や「キッズアカデミー」、高校との連携による人材育成に取り組んでいます。 ゆめテクノのインキュベーション機能の活用により、人材育成にもつながっています。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	2(やや遅れている)	伊賀ブランドの浸透により、地産地消等の循環型産業構造が進んでいます。 市民の消費行動などの分析検証には至っていません。
これからの自治 「つながりを結び直す」	2(やや遅れている)	産業振興条例の掲げる理念を具体化し、市民や事業者と共有するため(仮称)産業振興アクションプランの策定に早急に取り組む必要があります。

■成果指標進捗度

指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	目標値	成果指標の進捗度	所管課	事務事業改善案(ACTION)	基本事業の進捗
I	市民まちづくりアンケート【施策(17) 商工業・産業立地】における参画度	市民まちづくりアンケート【施策(17) 商工業・産業立地】における参画度において、“当てはまる” “どちらかと言えば当てはまる”と回答した率	単年	R6 42.7%	R7 30.9%				R10 47%	×進まなかった(70%未満)	産業農林部 産業政策課	●産業振興アクションプランは、条例の理念を具現化するものです。このプランを実効性が高く、行政、事業者、市民が一体的に取り組めるものとするため、今後の策定に向けて、市を取り巻く社会情勢や経済の現状の整理を行います。 ●商工団体等中間支援団体や事業者との産業振興懇談会等意見交換の場を設け、市内事業者等の実情を調査します。	△やや遅れている(70%以上85%未満)
I	公共調達に係る条例の制定	2027(令和9)年度末までに条例を制定し、その後新たな成果指標を設定する		—	—				R9 条例制定	×進まなかった(70%未満)	総務部 契約管理課	●成果指標を変更します。 (成果指標の説明)2027(令和9)年度末までに条例を制定し、その後新たな成果指標を設定する(目標値)R9 条例制定【KPI変更済】	×遅れている(70%未満)

その他の意見等

・施策4-1「地域経済」は、個々の事務事業とそれを束ねる基本事業というより、地域経済の活性化のための基本的な理念や仕組みを確率・整備するための施策としての性格を持つものであり、外部評価になじむものか検討が必要である。

・基本事業①「産業振興」の成果指標について、まちづくりアンケートでは「参画度」を問わない形式へ変更されたため、KPIの早急な再設定が必要である。

・スケジュールの遅延については、外部要因だけでなく推進体制の課題等も含めて検証し、遅れをどうリカバリーしていくかという前向きな改善案の提示を望む。

・計画および条例の策定には多様な主体の参画を得て進めることが求められる。そのための取組や工夫をACTION欄に明記してほしい。

施策評価シート

【施策】 4-2

農業・林業

【めざす姿】 人と自然が共生し、農林業を元気にする

分野

4. にぎわいをつくる

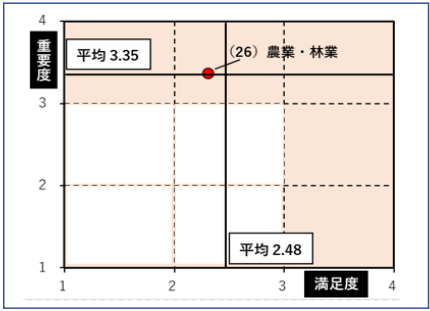
【取りまとめ部局】

産業農林部

■まちづくりアンケート調査結果(点)

年代別内訳(点)

指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.31	0	0	0	2.48	2.82	2.43	2.22	2.23
今後の重要度	3.37	0	0	0	3.35	3.43	3.35	3.42	3.33



■基本事業(具体的な取組)CHECK①

基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組 (PLAN)	事務事業 (DO)	効果検証 (CHECK)																																																								
①	農業	持続可能な地域農業の維持発展に取り組めます	・農業のめざすべき姿とその施策を示した「農業振興計画」の策定に取り組めます。 ・国等の制度を活用し、高付加価値化や環境に配慮した農業を推進して生産者の経営所得安定を図るとともに、新規就農者確保に向けて「農業アカデミー」の可能性を検討します。 ・関係機関と協力して伊賀製品の販路拡大と農産物のPRを推進し、商業・観光との連携を図ります。また、地元資源を活かした農泊や農業体験の成功事例を紹介しながら地域の関心を促していきます。 ・有機農産物の市内流通や消費システムの確立をめざし、取組を進めます。 ・いがスマイル給食を通して、児童生徒や保護者に向けて地産地消や食育についての幅広い情報提供を行います。 ・獣害柵の補修についての支援や、伊賀市猟友会の会員数の増加にむけて、狩猟免許取得に対する支援を行います。	<table><thead><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr></thead><tbody><tr><td>644</td><td>農業振興計画策定事業</td></tr><tr><td>316</td><td>畜産振興事業</td></tr><tr><td>315</td><td>畜産振興事務経費</td></tr><tr><td>302</td><td>農林業公社及び生産組合支援事業</td></tr><tr><td>301</td><td>集客型農業支援事業</td></tr><tr><td>300</td><td>有機農産物地づくり推進事業</td></tr><tr><td>299</td><td>循環型農業推進施設管理経費</td></tr><tr><td>298</td><td>環境保全型農業直接支援対策事業</td></tr><tr><td>297</td><td>有害鳥獣駆除事業</td></tr><tr><td>296</td><td>特産農産物等振興事業</td></tr><tr><td>295</td><td>循環型農業実現モデル推進事業</td></tr><tr><td>294</td><td>農村環境改善センター維持管理経費</td></tr><tr><td>293</td><td>農業公園管理経費</td></tr><tr><td>292</td><td>中山間地域等直接支払交付金事業</td></tr><tr><td>291</td><td>伊賀米生産振興経費</td></tr><tr><td>290</td><td>鳥獣害防止事業</td></tr><tr><td>289</td><td>農業経営基盤強化資金等利子助成事業</td></tr><tr><td>288</td><td>農地集積協力金交付事業</td></tr><tr><td>287</td><td>新規就農者総合支援事業</td></tr><tr><td>286</td><td>農業経営基盤強化促進事業</td></tr><tr><td>285</td><td>農業振興地域整備計画促進事業</td></tr><tr><td>284</td><td>耕作放棄地再生利活用対策事業</td></tr><tr><td>283</td><td>農業振興事務経費</td></tr><tr><td>279</td><td>事務管理経費</td></tr><tr><td>278</td><td>有機農産物振興事業</td></tr><tr><td>277</td><td>農業者年金振興経費</td></tr><tr><td>276</td><td>事務局管理経費</td></tr></tbody></table>	整理番号	事業名	644	農業振興計画策定事業	316	畜産振興事業	315	畜産振興事務経費	302	農林業公社及び生産組合支援事業	301	集客型農業支援事業	300	有機農産物地づくり推進事業	299	循環型農業推進施設管理経費	298	環境保全型農業直接支援対策事業	297	有害鳥獣駆除事業	296	特産農産物等振興事業	295	循環型農業実現モデル推進事業	294	農村環境改善センター維持管理経費	293	農業公園管理経費	292	中山間地域等直接支払交付金事業	291	伊賀米生産振興経費	290	鳥獣害防止事業	289	農業経営基盤強化資金等利子助成事業	288	農地集積協力金交付事業	287	新規就農者総合支援事業	286	農業経営基盤強化促進事業	285	農業振興地域整備計画促進事業	284	耕作放棄地再生利活用対策事業	283	農業振興事務経費	279	事務管理経費	278	有機農産物振興事業	277	農業者年金振興経費	276	事務局管理経費	【効果が出ている点】 ●新規就農の相談については、関係機関と連携を図りながら、それぞれの役割を担い指導・助言をおこなっており、近年比較的小さい方の相談が増加しています。 ●伊賀地域において、環境負荷を低減した農業生産活動により生産された農産物の普及及び振興を目的に、伊賀広域農産物ブランド「IGAGREEN」の登録制度を制定し、伊賀市・名張市において協定を締結しました。 ●「伊賀市夢のある農業振興計画」の策定を進めているところであり、農業者をはじめ、消費者、学生等に意見を聴取するなど、さまざまな分野から意見を取り入れることができています。 ●令和7年度において伊賀製品の販路拡大や農産物のPRを行うイベント等の機会はなかったものの、令和8年度から参画する「一般社団法人おにぎり協会」への加入、および令和8年度おにぎりサミット参加に向けた検討を進めました。 ●スマイル給食を通じて関係課と連携し、小中学生に地産地消や食育について情報発信を行いました。 ●伊賀市鳥獣害に負けない地域づくり推進(ハード・ソフト)事業により、獣害防止策の設置や更新(ハード)を行うとともに、狩猟免許取得の支援(ソフト)などを行いました。また、有害鳥獣の駆除を推進し、個体数の調整を行いました。 【新たな課題】 ●新規就農について、作目は施設野菜や果樹が多く、水稲を希望する方が少ない状況です。 ●「IGAGREEN」について、今後の登録数を増加させる手法が課題となっています。
整理番号	事業名																																																												
644	農業振興計画策定事業																																																												
316	畜産振興事業																																																												
315	畜産振興事務経費																																																												
302	農林業公社及び生産組合支援事業																																																												
301	集客型農業支援事業																																																												
300	有機農産物地づくり推進事業																																																												
299	循環型農業推進施設管理経費																																																												
298	環境保全型農業直接支援対策事業																																																												
297	有害鳥獣駆除事業																																																												
296	特産農産物等振興事業																																																												
295	循環型農業実現モデル推進事業																																																												
294	農村環境改善センター維持管理経費																																																												
293	農業公園管理経費																																																												
292	中山間地域等直接支払交付金事業																																																												
291	伊賀米生産振興経費																																																												
290	鳥獣害防止事業																																																												
289	農業経営基盤強化資金等利子助成事業																																																												
288	農地集積協力金交付事業																																																												
287	新規就農者総合支援事業																																																												
286	農業経営基盤強化促進事業																																																												
285	農業振興地域整備計画促進事業																																																												
284	耕作放棄地再生利活用対策事業																																																												
283	農業振興事務経費																																																												
279	事務管理経費																																																												
278	有機農産物振興事業																																																												
277	農業者年金振興経費																																																												
276	事務局管理経費																																																												
②	農村整備	農地及び農村資源(農道・水路等)保全のための共同活動を支援します	・地域の共同活動を通じて、農業・農村の有する多面的機能の維持が保たれるよう、農地や水路、農道、ため池などの共用設備の維持管理や補修を行うための活動を支援します。また、この活動に伴う事務負担を軽減するために事務作業の簡素化を検討し、活動組織数や担い手農家の減少傾向を抑制します。 ・ため池の改修工事により長寿命化を図り、農業用水の利用がなくなったため池については、廃池工事を実施します。	<table><thead><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr></thead><tbody><tr><td>314</td><td>国土調査事業</td></tr><tr><td>313</td><td>国土調査推進事業</td></tr><tr><td>312</td><td>施設計画策定事業</td></tr><tr><td>311</td><td>団体営ため池等整備事業</td></tr><tr><td>310</td><td>国営施設応急対策事業</td></tr><tr><td>309</td><td>農業水路等長寿命化・防災減災事業</td></tr><tr><td>308</td><td>農道台帳整備事業</td></tr><tr><td>307</td><td>県営事業負担金</td></tr><tr><td>306</td><td>多面的機能支払交付金事業</td></tr><tr><td>305</td><td>市単土地改良事業</td></tr><tr><td>304</td><td>土地改良施設維持管理適正化事業</td></tr><tr><td>303</td><td>土地改良事業管理経費</td></tr><tr><td>281</td><td>地すべり防止区域維持管理受託事業</td></tr><tr><td>280</td><td>広域農道・農用道路維持管理経費</td></tr></tbody></table>	整理番号	事業名	314	国土調査事業	313	国土調査推進事業	312	施設計画策定事業	311	団体営ため池等整備事業	310	国営施設応急対策事業	309	農業水路等長寿命化・防災減災事業	308	農道台帳整備事業	307	県営事業負担金	306	多面的機能支払交付金事業	305	市単土地改良事業	304	土地改良施設維持管理適正化事業	303	土地改良事業管理経費	281	地すべり防止区域維持管理受託事業	280	広域農道・農用道路維持管理経費	【効果が出ている点】 ●農地をはじめとする地域資源(農地・水路・農道等)の維持管理や補修更新を行う地域の共同活動組織が成立し、地域独自の様々な共同活動を支援することで、地域のつながりや農業・農村の保全、水源の涵養、良好な景観形成等の多面的な機能が発揮されています。 ●防災重点農業用ため池の防災工事により、堤体決壊の恐れのあるため池を廃止したことで浸水被害の予防保全が図られました。																										
整理番号	事業名																																																												
314	国土調査事業																																																												
313	国土調査推進事業																																																												
312	施設計画策定事業																																																												
311	団体営ため池等整備事業																																																												
310	国営施設応急対策事業																																																												
309	農業水路等長寿命化・防災減災事業																																																												
308	農道台帳整備事業																																																												
307	県営事業負担金																																																												
306	多面的機能支払交付金事業																																																												
305	市単土地改良事業																																																												
304	土地改良施設維持管理適正化事業																																																												
303	土地改良事業管理経費																																																												
281	地すべり防止区域維持管理受託事業																																																												
280	広域農道・農用道路維持管理経費																																																												

■横断的な取組の進捗CHECK②

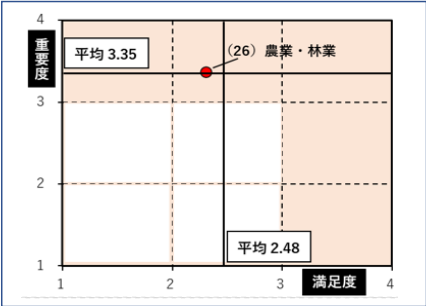
みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	○新規就農者の確保については継続して関係機関と連携を図りながら指導・助言をおこなっています。 また、スマイル給食を通じて食育をはじめ、有機農業の啓発も進めています。○令和8年12月の策定に向けて進めている「伊賀市夢のある農業振興計画」については、農業だけではなく、さまざまな分野からの意見を聴取し持続可能な農業の実現に向けて進めています。○森林環境教育の実施や自伐林家の育成支援等により、こどもから大人まで森林に関わる学びや担い手づくりを進めています。また、多様な主体の参画により地域活動への関与も広がっています。しかしながら、担い手不足や人材の固定化が見られることから、さらなる人材の確保・育成や多様な人材の参画促進が必要です。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	○「伊賀市夢のある農業振興計画」の策定を進めるにあたり、農業者の意見だけでなく、消費者や学生等といったさまざまな意見を聴取することで、新しい気付きや取組みが期待できます。○森林整備や木材利用の推進により、森林資源の有効活用や災害に強い基盤づくりが進んでいます。また、地域経済の循環に向け、地域材の活用や林業振興を推進します。「まち」と「むら」の共生に向け、下流自治体との連携に向けた事業を検討しています。一方で、担い手不足や木材需要の安定確保などの課題があり、持続可能な体制づくりの強化が必要です。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	○伊賀市で初となる「オープンハウス型説明会」を実施し、市民との対話の機会を設けました。また、農業者だけではなく消費者や学生等からの意見聴取を実施しました。令和8年度にはタウンミーティングを実施することとしており、市民参加の促進や他分野との協働を図っています。○伊賀市未来の山づくり協議会をはじめとした関係機関との連携により、多様な主体との協働も少しずつ進んでいます。森林整備や里山保全活動、森林環境教育の取組を通じて、市民や関係団体の参画が進み、地域課題の解決に向けた取組を展開しています。今後は、さらなる市民参画の促進や新たな担い手の確保が必要です。

■成果指標進捗度

指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	目標値	成果指標の進捗度	所管課	事務事業改善案(ACTION)	基本事業の進捗
I	ふるさと納税の返礼品の農産物の返礼件数	ふるさと納税の返礼品の農産物(伊賀牛・米)の返礼件数	単年	R6 5,727件	R7 4,327件				R10 6,297件	△あまり進まなかった(70%以上85%未満)	産業農林部 農業振興課	●地域おこし協力隊を活用し、水稲を耕作している複数の農業法人等で組織する団体へ派遣することで、水稲をはじめ、経営面や技術面についての習得を進めます。 ●「IGAGREEN」の登録数を増加させるためには、登録された農産物を市内の直売所等で販売いただける体制が必要となることから、市内の店舗へ出向き、制度の説明や有機農業の啓発をおこない、取扱店舗の確保にも努めます。	○計画通り進めている(85%以上100%未満)
II	新規に認定された「認定農業者」数	新規に認定された「認定農業者」数	単年	R6 8経営体	R7 8経営体				R10 12経営体	×進まなかった(70%未満)	産業農林部 農業振興課	●「伊賀市夢のある農業振興計画」について、今後はタウンミーティングの開催も計画しており、これまでの意見や委員会で議論された内容を包括し、伊賀市らしい計画策定ができるよう進めます。 ●「おにぎり」を通じて伊賀米や伊賀市の農産物を全国に向けてPRしていくとともに、企業とのコラボレーションや他の参画自治体との横の繋がりによる展開を図っていきます。	
III	鳥獣害による農業被害の軽減	被害金額	単年	R5 3,500,000円	R7 3,741,000円				R9 2,800,000円	△あまり進まなかった(70%以上85%未満)	産業農林部 獣害対策室	●スマイル給食を通じて、学校教育課をはじめ関係課・関係機関と連携し、地産地消や食育について情報発信を継続していきます。 ●今後も獣害防止策の設置・更新を進めていきます。また、有害鳥獣駆除の担い手である狩猟免許取得者の確保と、活動の支援を継続していきます。	
I	多面的機能支払交付金を使って取り組む組織数の減少率	2025(令和7)年3月末の多面的機能支払交付金を使って取り組む組織数を基準とする。	単年	R6 0%	R7 0%				R10 5%	◎目標以上に進んだ(100%以上)	産業農林部 農村整備課	計画どおり進めます。	◎完了(100%以上)

■まちづくりアンケート調査結果(点)

指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.31	0	0	0	2.48	2.82	2.43	2.22	2.23
今後の重要度	3.37	0	0	0	3.35	3.43	3.35	3.42	3.33



■基本事業(具体的な取組)CHECK①

基本 事業 番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組 (PLAN)	事務事業 (DO)	効果検証 (CHECK)																		
③	森林環境	森林環境を整え、災害に強い森林づくり、魅力ある地域の山づくりを推進します	・不明確な森林境界を明確にすることにより、森林整備を促進させます。 ・環境林の間伐施業を行い、森林の適切な整備及び保全を行うことにより、災害に強い森林づくりを進めます。 ・自伐林家の育成を支援し、山の担い手づくりを推進します。 ・魅力ある地域の山づくりを推進し、地域の活性化を図ります。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>618</td><td>みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業</td></tr><tr><td>617</td><td>みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業</td></tr><tr><td>560</td><td>財産区有林造成事業</td></tr><tr><td>559</td><td>一般管理経費</td></tr><tr><td>330</td><td>森林環境譲与税事業</td></tr><tr><td>323</td><td>森林環境保全整備事業</td></tr><tr><td>322</td><td>治山林道維持経費</td></tr><tr><td>318</td><td>森林環境創造事業</td></tr></table>	整理番号	事業名	618	みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業	617	みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業	560	財産区有林造成事業	559	一般管理経費	330	森林環境譲与税事業	323	森林環境保全整備事業	322	治山林道維持経費	318	森林環境創造事業	[効果が出ている点] ●森林境界の明確化や環境林の間伐施業により、森林整備の推進及び災害に強い森林づくりが進んでいます。 ●自伐林家の育成支援等により担い手の確保や地域の山づくりの推進、地域活性化が図られています。 ●各事業（みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）、森林環境譲与税事業等）の実施により、里山保全活動が推進され、森林の公益的機能の維持向上や地域活動の活性化が図られました。 [新たな課題] ●担い手不足、継続的な施業体制の確保が課題となっています。
整理番号	事業名																						
618	みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業																						
617	みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業																						
560	財産区有林造成事業																						
559	一般管理経費																						
330	森林環境譲与税事業																						
323	森林環境保全整備事業																						
322	治山林道維持経費																						
318	森林環境創造事業																						
④	森林資源	森林資源を有効活用し、山の魅力発信、木材の利用推進を行います	・森林所有者及び林業従事者の作業道整備、木材搬出の支援及び持続的な林業経営確立への支援を行い、森林の適正管理及び間伐材の利活用を推進します。 ・伊賀市産木材の搬出量を増加させ、ブランド化の推進、原木市場の活性化を図ることで、山林所有者の育林・施業への関心及び素材生産者等林業関係者の意欲の高揚を促進します。 ・テナント・店舗等において、伊賀市産木材で木質化されたモデル店舗を創出し、木の温もりを感じられる空間を情報発信することで、地域材の活用を促進します。 ・下流の自治体との連携による水源の森林への関心を促す取組を推進します。 ・こどもたちの森林環境教育活動を支援し、山づくり意識の普及啓発を推進します。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>321</td><td>ハーモニー・フォレスト維持管理経費</td></tr><tr><td>319</td><td>緊急間伐・搬出間伐推進事業</td></tr></table> 330 森林環境譲与税事業の一部	整理番号	事業名	321	ハーモニー・フォレスト維持管理経費	319	緊急間伐・搬出間伐推進事業	[効果が出ている点] ●作業道整備や木材搬出支援等により、森林の適正管理や間伐材の利活用が推進されるとともに、伊賀市産木材の利用拡大や原木市場の活性化、林業関係者の意欲向上が図られました。 ●森林環境教育、地域材利用の促進や森林への関心の醸成が進んでいます。 [新たな課題] ●担い手不足や木材搬出コストの増加、需要と供給の不足、取組の継続性の確保が課題となっています。												
整理番号	事業名																						
321	ハーモニー・フォレスト維持管理経費																						
319	緊急間伐・搬出間伐推進事業																						

◆令和7年度外部評価

項目	評価	所見
(1)効果検証の適正性	B	一部見直しの必要あり 効果検証については、事業内容ではなく、成果や課題が読み取れる評価をすべき。農業については、課題を絞り込む必要がある。(持続可能な農業のため、儲かること、担い手が増加すること、既存資源の活用など、整理して成果や課題を捉える必要がある)
(2)事務事業改善案の妥当性	B	一部見直しの必要あり 農業については、本質的な課題を絞り込み、それに対応した方策を記述すべき。
(3)施策の進捗状況	B	やや良い(概ね順調) ・事業についての一定の成果は認められるが、計画と比べると農業の成果指標の進捗度が悪い。 ・持続可能な農林業についてはまだまだ課題があり、今後順調に進めてほしい。

■横断的な取組の進捗CHECK②

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	○新規就農者の確保については継続して関係機関と連携を図りながら指導・助言をおこなっています。 また、スマイル給食を通じて食育をはじめ、有機農業の啓発も進めています。○令和8年12月の策定に向けて進めている「伊賀市夢のある農業振興計画」については、農業だけではなく、さまざまな分野からの意見を聴取し持続可能な農業の実現に向けて進めています。○森林環境教育の実施や自伐林家の育成支援等により、こどもから大人まで森林に関わる学びや担い手づくりを進めています。また、多様な主体の参画により地域活動への関与も広がっています。しかしながら、担い手不足や人材の固定化が見られることから、さらなる人材の確保・育成や多様な人材の参画促進が必要です。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	○「伊賀市夢のある農業振興計画」の策定を進めるにあたり、農業者の意見だけでなく、消費者や学生等といったさまざまな意見を聴取することで、新しい気付きや取組みが期待できます。○森林整備や木材利用の推進により、森林資源の有効活用や災害に強い基盤づくりが進んでいます。また、地域経済の循環に向け、地域材の活用や林業振興を推進します。「まち」と「むら」の共生に向け、下流自治体との連携に向けた事業を検討しています。一方で、担い手不足や木材需要の安定確保などの課題があり、持続可能な体制づくりの強化が必要です。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	○伊賀市で初となる「オープンハウス型説明会」を実施し、市民との対話の機会を設けました。また、農業者だけではなく消費者や学生等からの意見聴取を実施しました。令和8年度にはタウンミーティングを実施することとしており、市民参加の促進や他分野との協働を図っています。○伊賀市未来の山づくり協議会をはじめとした関係機関との連携により、多様な主体との協働も少しずつ進んでいます。森林整備や登山安全活動、森林環境教育の取組を通じて、市民や関係団体の参画が進み、地域課題の解決に向けた取組を展開しています。今後は、さらなる市民参画の促進や新たな担い手の確保が必要です。

■成果指標進捗度

指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	目標値	成果指標の進捗度	所管課	事業事業改善案(ACTION)	基本事業の進捗
I	境界明確化実施面積	森林環境整備の推進を図るため、森林の境界を明確化した面積(ha)	単年	R6 280ha	R7 243.45ha				R10 220ha	◎目標以上に進んだ(100%以上)	産業農林部 未来の山づくり推進課	●担い手不足の課題に対しては、自伐型林業の推進や新規就林者を増やすための取組、研修機会の確保等により人材の確保・育成を図るとともに、関係団体との連携強化により事業の継続性の向上に努めます。	◎完了(100%以上)
I	市内の原木市場へ搬出された材木の内、市内で伐採された材木の材積	原木市場では生産者から集めた原木丸太を選別、仕分けを行い原木市を開催。森林整備の進捗状況を表す。	単年	R6 7,327m3	R7 7,834m3				R10 9,000m3	◎目標以上に進んだ(100%以上)	産業農林部 未来の山づくり推進課	●担い手不足に対しては、人材の確保・育成に向けた取組を強化します。 ●補助金等による木材搬出支援や効率的な施業の推進に努め、木材市場との連携による需要と供給の増加や販路拡大による取組により、地域材の安定的な利用促進を図ります。	◎完了(100%以上)

その他の意見等

- ・事業の体系やストーリーを整理して評価すればやりやすくなる。
- ・ふるさと納税の返礼品の件数を成果指標としてやっていくのは厳しい。
- ・林業のめざす方向性が見えにくい。

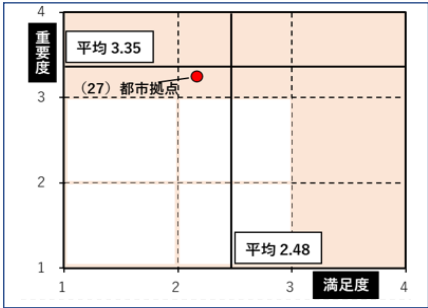
【施策】 4-3 都市拠点

【めざす姿】 持続可能で魅力あふれる拠点をつくる

■まちづくりアンケート調査結果(点)

年代別内訳(点)

指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.16	0	0	0	2.48	2.45	2.09	2.1	2.2
今後の重要度	3.25	0	0	0	3.35	3.45	3.28	3.22	3.23



■基本事業(具体的な取組)CHECK①

基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組 (PLAN)	事務事業 (DO)	効果検証 (CHECK)								
①	市街地の活性化	便利で住みよいまちづくり	・まちなかの空き家・空き店舗等の既存ストックの活用により、多様な人々が働く場や交流の場をつくります。 ・市全体の都市機能を支えるとともに、まちなか居住の拠点として、買い物や移動、通院などの利便性が高く、こどもが遊び、学べる環境が充実した、多世代が暮らしやすく、住んでみたいと思える環境づくりを進めます。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>380</td><td>中心市街地公共公益施設管理経費</td></tr><tr><td>378</td><td>中心市街地活性化事業</td></tr><tr><td>376</td><td>市街地整備推進事業費</td></tr></table>	整理番号	事業名	380	中心市街地公共公益施設管理経費	378	中心市街地活性化事業	376	市街地整備推進事業費	[効果が出ている点] ●第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画を軸として、旧上野ふれあいプラザ跡地利活用検討の進捗状況や空き店舗等を活用した新規出店数を調査し、市街地活性化の効果検証および課題の洗い出しを行っています。 ●古民家活用や空き店舗対策などに頼まなく、伊賀上野と連携して取り組み、令和7年度の空き店舗等利活用新規出店数が8件となり、目標の7件を上回りました。 [新たな課題] ●一部で空き家・空き店舗の活用が進んでいるものの、人口減少、空き家・空き店舗の増加が続いています。地域や民間団体が主体となった取り組みを推進する必要があります。
整理番号	事業名												
380	中心市街地公共公益施設管理経費												
378	中心市街地活性化事業												
376	市街地整備推進事業費												
②	都市機能の集約	地域主導の攻め(価値向上)と守り(生活維持・向上)の取組	・各地域拠点での課題の解決のための具体的な取組に関して、各部局・担当課にて推進するものの中から、都市マスタープランに位置づけられた方向性、目標にリンクするものの洗い出しを行います。 ・洗い出しにより出てきた地域拠点での課題、持続可能な地域づくりに資する取組に関して、全庁横断的に進捗について把握し、必要に応じて関係課との間で情報を共有します。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td colspan="2">参照するレコードがありません。</td></tr></table> ※事務事業評価シートは作成対象外です	整理番号	事業名	参照するレコードがありません。		[効果が出ている点] ●都市マスタープランに整合した取組の抜け漏れをなくし、全庁横断で進捗を可視化・是正することで、地域拠点の課題解決と目標達成の検証を行っています。 ●令和7年度は29課への聞き取りを実施し、実施すべき項目の約9割で何らかの進捗が見られました。 [新たな課題] ●都市マスタープランの中で記載している地域担当職員や支援する担当職員が明確になっていませんでした。				
整理番号	事業名												
参照するレコードがありません。													
③	にぎわい忍者回廊	伊賀らしい歴史文化資源を活用した集客促進	・既存の歴史的資源や空き家・空き店舗の活用により立ち寄り拠点を作ります。 ・物産品、宿泊、体験メニュー等既存の支援を提供することで魅力を高め、まちなか周遊への誘導を図ります。特に新たな拠点整備として、地域住民や観光客が交流できる施設を整備し、さらなるにぎわいの創出をめざします。また、それらを繋げる工夫により、歩いて楽しい回廊づくりを進めていきます。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>645</td><td>旧上野ふれあいプラザ跡地利活用事業</td></tr><tr><td>379</td><td>旧上野市庁舎利活用事業</td></tr></table>	整理番号	事業名	645	旧上野ふれあいプラザ跡地利活用事業	379	旧上野市庁舎利活用事業	[効果が出ている点] ●中心市街地エリアの歩行者通行量等を調査し、中心市街地全体への回遊について効果検証および課題の洗い出しを行っています。 令和7年度は7月に旧上野市庁舎SAKAKURABASEがオープンし、同年度3月には伊賀市にぎわい忍者回廊整備事業完成記念式典も開催されました。文化財施設を活用した複合施設であり非常に注目度が高く、取材や視察の依頼も多くなっています。 ●旧上野ふれあいプラザ跡地活用デザイン会議を立ち上げ、利活用の方針決定に向けて検討を開始しました。 ●令和7年11月にレンタサイクルを導入し、まちなか回遊の向上が期待されます。 [新たな課題] ●旧上野市庁舎SAKAKURABASEを拠点とした北側へ人が滞留し、南側エリアを含めた中心市街地全体への回遊にはつながっていません。地域資源がつながる、歩いて楽しい立ち寄りとなる城下町を目指す必要があります。		
整理番号	事業名												
645	旧上野ふれあいプラザ跡地利活用事業												
379	旧上野市庁舎利活用事業												

◆令和7年度外部評価

項目	評価	所見
(1)効果検証の適正性	B	一部見直しの必要あり 基本事業①「市街地の活性化」効果検証の新たな課題で「人口減少、空き家、空き店舗の増加が続いています…」とあるが、2-10「空き家」(建設部)とは連携、情報共有して取り組まれているか。取り組まれているのであれば効果検証で記載されると良い。
(2)事務事業改善案の妥当性	B	一部見直しの必要あり 基本事業①「市街地の活性化」③「にぎわい忍者回廊」は特定の事務事業に特化した改善案が明記されているため、基本事業全体にわたる見直しと改善案を記載してほしい。
(3)施策の進捗状況	B	やや良い(概ね順調) にぎわいの創出や地域資源の利用について、より具体的な施策を展開し、さらなる取組の充実を図ってほしい。

■横断的な取組の進捗CHECK②

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	【中心市街地課】3(計画通り進めている)中心市街地の新たな拠点となる旧上野市庁舎SAKAKURABASEが予定通り令和7年7月にオープンし、空き店舗等を活用した新規出店数も目標値を達成するなど中心市街地の賑わい創出が高まっています。 【都市計画課】3(計画通り進めている)歴史的風致維持向上計画に位置付けられた事業や歴史的建造物を活用したNIPPONIAHOTEL伊賀上野城下町の展開、景観計画に基づく景観の保全、さらには20世紀遺産20選に選ばれた歴史的文化景観を活かした取り組みが行われており、16項目で目標達成に向けた進捗がなされています。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	【中心市街地課】3(計画通り進めている)ビッグデータを活用し、頼まちづくり伊賀上野や商工会議所等と連携しながら城下町の保存やまちなかの回遊性向上に努めています。 【都市計画課】3(計画通り進めている)観光振興ビジョンを策定し伊賀上野DMOを中心とした観光施策が展開されています。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	【中心市街地課】3(計画通り進めている)にぎわい忍者回廊事業をはじめとし、PF事業者等と連携しながらレンタルサイクル導入などもまちなか賑わい創出に向けて計画通り進めています。 【都市計画課】3(計画通り進めている)伊賀上野DMOを中心とした観光誘客の事業展開のほか、知的所有権拠点の1つである「道の駅あやま」での情報発信や定住自立圏の連携出店などが継続して行われています。さらに、第1次産業(農林業)の高度化やコミュニティビジネスの創出等では、一部の自治協議会での特産品づくりや、三重大学伊賀研究拠点で産学連携による様々な取り組みが継続して行われており、計画通りの進捗がみられます。

■成果指標進捗度

指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	目標値	成果指標の進捗度	所管課	事務事業改善案(ACTION)	基本事業の進捗
I	中心市街地における新規出店数	居住人口の社会増減数の動向及び出店支援事業を通じて実際に出店に至った実績数により事業効果を図る。	累計	R6 4件	R7 8件				R10 32件	◎目標以上に進んだ(100%以上)	産業農林部 中心市街地課	●(白鳳プラザの安定化)週2回の野菜販売という限定的な利用から、回数を増やし「日常利用」へ完全に移行し、生活基盤としての機能を確認するものとします。 ●(「点」から「面」への波及)白鳳プラザに集まった人々を周辺店舗へ回遊させる動線を構築し、特定の施設利用に留まらない、エリア全体での賑わいを創出します。 ●(組織横断的な連携体制)頼まちづくり伊賀上野と、地域おこし協力隊の機動力を融合させ、空き店舗所有者の不安を取り除く丁寧な活用支援を行います。	○計画通り進んでいる(85%以上100%未満)
I	各種施策の進捗管理	都市マスタープランに位置付けられた各種施策に関する庁内進捗率	累計	R6 —	R7 90%				R10 100%	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	建設部 都市計画課	●令和8年度からは各支所に地域自治振興係が設置されたことから、当該部署と連携しつつ地域拠点づくりに向けた福祉・観光・教育・就業支援などの多様な地域のコミュニティビジネスの創出に向けた相談体制などの整備を進めます。	○計画通り進んでいる(85%以上100%未満)
I	中心市街地の歩行者等通行量	スマートフォンのGPSを活用した人流測定による歩行者数の分析及びにぎわい忍者回廊事業をはじめとした、まちなか回遊の事業効果を測定	累計	R6 6,456人	R7 5,954人				R10 7,684人	△あまり進まなかった(70%以上85%未満)	産業農林部 中心市街地課	●旧上野ふれあいプラザ跡地の利活用について、オープンハウスで得られた意見およびデザイン会議答申を踏まえ、基本方針・ゾーニング等の考え方を部内最終案として取りまとめます。 ●令和9年度に基本計画(概算工事業費を含む)の策定・令和10年度補助採択に繋げるため、令和9年度中に必要となる基本計画策定等の予算措置を進めます。	○計画通り進んでいる(85%以上100%未満)

その他の意見等

- ・効果検証の新たな課題で「中心市街地全体への回遊につながっていない。…立ち寄りたくなる城下町を目指す必要がある。」とあるが、事務事業改善案には新たな課題に対する改善策の記載が無い。
- ・令和9年度に基本計画の策定とあるが、今後どのように進めるのか内容が不明なため、計画内容(例)を記載していただけると理解できる。
- ・見えてきた課題(回遊性向上など)に対し、少しでも早く「面」での賑わいを生み出せるよう、実行フェーズへのスピーディーな移行を期待する。
- ・整備状況や事業の進捗は分かりやすく整理されているが、施設がどのように利用され、地域のにぎわいや利便性の向上につながっているのかについても、継続的に確認できると施策の成果がより分かりやすくなる。

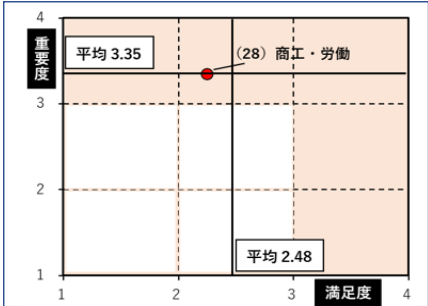
【施策】 4-4 商工・労働

【めざす姿】 地域の特性を活かし、商工業活動を盛んにする

■まちづくりアンケート調査結果(点)

年代別内訳(点)

指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.25	0	0	0	2.48	2.61	2.21	2.26	2.2
今後の重要度	3.35	0	0	0	3.35	3.48	3.42	3.32	3.3



■基本事業(具体的な取組)CHECK①

基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組 (PLAN)	事務事業 (DO)	効果検証 (CHECK)												
①	商工業	商工業や地場産業の振興、後継者育成、事業者の意欲高揚を図ります	・商工団体や商店街が行う、商工業の発展や後継者育成、継続的な集客と賑わいを創出するための事業支援、物価高騰の影響を受けている中小企業者の事業継続・持続的発展に向けた支援に継続して取り組みます。 ・伊賀ブランド認定品をはじめ伊賀の地場産業の魅力を国内外に発信するとともに、伝統的工芸品である「伊賀焼」や「伊賀くみひも」の体験機会を創出し、更なるブランド力の強化と事業者の生産・販売意欲の高揚、販路拡大・新たな商品開発、将来の担い手確保につながる取組を官民が連携・協働して推進します。 ・産業振興の視点を加味したふるさと納税を強化します。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>619</td><td>ふるさと応援事業</td></tr><tr><td>337</td><td>地場産業振興事業</td></tr><tr><td>334</td><td>交流促進施設維持管理経費</td></tr><tr><td>333</td><td>中心市街地等商店街活性化事業</td></tr><tr><td>331</td><td>商工振興経費</td></tr></table>	整理番号	事業名	619	ふるさと応援事業	337	地場産業振興事業	334	交流促進施設維持管理経費	333	中心市街地等商店街活性化事業	331	商工振興経費	[効果が出ている点] ●令和7年度に開催された「大阪・関西万博」を契機とし、伊賀市の地場産業、物産、ふるさと納税など伊賀市の魅力発信を行い、関係人口の創出に努めました。 [新たな課題] ●エネルギー価格や物価等の高騰により事業活動に大きな影響が出ました。
整理番号	事業名																
619	ふるさと応援事業																
337	地場産業振興事業																
334	交流促進施設維持管理経費																
333	中心市街地等商店街活性化事業																
331	商工振興経費																
②	企業立地	雇用確保及び税收確保のため、産業用地の創出並びに市域全体への企業誘致を進めています	・新たな産業用地の創出に加えて、市内の民間遊休地や居抜き物件の情報収集を行い、情報発信や交流セミナーを通じて立地を検討している企業の獲得に繋がります。 ・企業立地を促進するため、周辺自治体の奨励制度を調査し、立地奨励制度の見直しを進めます。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>332</td><td>企業立地促進経費</td></tr></table>	整理番号	事業名	332	企業立地促進経費	[効果が出ている点] ●企業訪問などにおいて、市内の民間遊休地などによる立地可能な情報の提供を行うと共に、上野南部丘陵地へ3企業から進出希望調書の提出がありました。 ●交流セミナーと題し市内企業の展示会を市内会場で開催し、市内の製造業のPRを行うことによる情報発信を行いました。 ●県内や近隣の自治体の奨励金制度の調査により、現行条例の見直しについての素案を作成しました。								
整理番号	事業名																
332	企業立地促進経費																
③	起業・雇用・労働	起業を支援し、地域経済の活性化を図るとともに、誰もが意欲と能力に応じて働くことができる労働環境づくりを促進します	・「創業支援等事業計画」に基づき、商工関係団体、ゆめテクノ伊賀などと連携し起業支援体制に取り組みます。 ・ゆめテクノ伊賀を拠点に、インキュベーションマネージャーを中心として、相談、交流会、創業スクールなどを開催し、起業の各ステージに応じた支援を充実します。 ・名張市、甲賀市、商工関係団体やハローワーク等と連携し、UJIターン希望者と市内企業のマッチングを図ります。 ・シルバー人材センターと連携し、高齢者の就業機会の確保を図るほか、若者サポートステーションと連携し、若年者の職業的自立を支援します。 ・多様な働き方や、ワークライフバランスの達成に向けた、市内企業の労働環境づくりを促進します。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>335</td><td>産学官連携研究開発拠点運営経費</td></tr><tr><td>275</td><td>雇用、勤労者対策事業</td></tr><tr><td>274</td><td>シルバー人材センター運営等経費</td></tr></table>	整理番号	事業名	335	産学官連携研究開発拠点運営経費	275	雇用、勤労者対策事業	274	シルバー人材センター運営等経費	[効果が出ている点] ●起業支援については、伊賀流創業応援忍び隊(商工会議所、商工会、ゆめテクノなど)の連携をより強化し、定期的の実務者会議を開催することで、効果的な起業支援に繋げることができました。 ●就職相談会における企業と求職者とのマッチングについては、ハローワークや近隣市町村など関係機関が連携のうえ、来場者とマッチング数を増やす取り組みを展開することができました。 [新たな課題] ●起業支援、地域経済の活性化、良好な労働環境の整備には、多様な主体による面的な取り組みが不可欠です。				
整理番号	事業名																
335	産学官連携研究開発拠点運営経費																
275	雇用、勤労者対策事業																
274	シルバー人材センター運営等経費																

◆令和7年度外部評価

項目	評価		所見
(1)効果検証の適正性	B	一部見直しの必要あり	ふるさと納税や起業促進など、伊賀市の魅力をどのようにPRできているのか、情報が伝わっているのかについての効果検証が読み取れない。
(2)事務事業改善案の妥当性	B	一部見直しの必要あり	こういったデータから、どのような分析をし、どう施策に結び着いているかが見えないため十分な評価ができない。
(3)施策の進捗状況	B	やや良い(概ね順調)	方向性は合っているため、具体的な取組が必要である。

■横断的な取組の進捗CHECK②

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	市内製造業が出展するイガプロを開催し、事業内容や技術を紹介することで「ものづくりのまち」として認識が高まっています。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	上野商工会議所、伊賀市商工会との連携により、事業継続、承継する環境を進めています。 伊賀ブランドにおいて、ECサイトにより多様な消費行動に対応しています。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	隣接する名張市、滋賀県甲賀市や商工団体と連携、合同して就職セミナーを開催することで、地域での商工業・サービスの維持向上に努めました。イガプロにおいても企業間交流が促進されビジネスマッチングが進んでいます。

■成果指標進捗度

指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	目標値	成果指標の進捗度	所管課	事務事業改善案(ACTION)	基本事業の進捗
I	ふるさと納税における継続寄付者数	ふるさと納税(個人版)において、前年に続いて寄付していただいた人数(=リピーター数)	累計	R6.12.31 2,296人	R7.3.31 3,263人				R10.12.31 2,500人	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	産業農林部 産業政策課	●万博を契機として高まった伊賀市の認知度をさらに高めるため、さらに積極的な情報発信に努めるとともに、事業者、産品が他地区より選ばれるよう、育成、ブラッシュアップに努める必要があります。	○計画通り進んでいる(85%以上100%未満)
I	新規立地企業件数	県調査の工場立地動向調査における新規立地企業件数	累計	R6 50件	R7 57件				R10 80件	△あまり進まなかった(70%以上85%未満)	産業農林部 産業政策課	●上野南部丘陵地の早期事業化及び市内の立地可能な情報の収集を継続的にを行い企業立地の促進に努める必要があり、企業のニーズ調査や交流セミナーなどの情報発信に取り組めます。 ●企業が立地を検討していただけるよう、奨励制度の見直しを継続して進めます。	△やや遅れている(70%以上85%未満)
I	「伊賀流創業応援者隊」の支援を受けて起業した件数	国の認定を受けた創業支援等事業計画に基づき、伊賀流創業応援者隊(伊賀市、上野商工会議所、伊賀市商工会、ゆめテクノ伊賀)の支援を受けて起業した件数	単年	R6(R5年度実績) 35件	R7(R6年度実績) 43件				R10(R9年度実績) 39件	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	産業農林部 産業政策課	●各テーマについて、近隣市町や商工関係団体等と連携を図りながら、施策を検討するとともに、起業家数や、企業と求職者のマッチング数など、データを基にした事業評価を行い、定量的なデータに基づいた、効果的な施策を展開します。	○計画通り進んでいる(85%以上100%未満)
II	就職相談会における企業と求職者の就職面談件数	名張市や甲賀市、各地域の商工会議所や商工会、ハローワーク等との共催で行う就職相談会において、企業と求職者が就職面談を行った件数	単年	R6(R6年度実績) 466件	R7(R7年度実績) 522件				R10(R10年度実績) 513件	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	産業農林部 産業政策課		

その他の意見等

- ・万博といったイベントでは意識調査でも効果が測れるため、めざす姿を追求するための効果検証としては、他の取組と紐づけて評価をしてほしい。
- ・コンテンツの開発に関する指標も検討してほしい。
- ・「努める」といった表現だけでなく、具体的な内容まで書いてほしい。

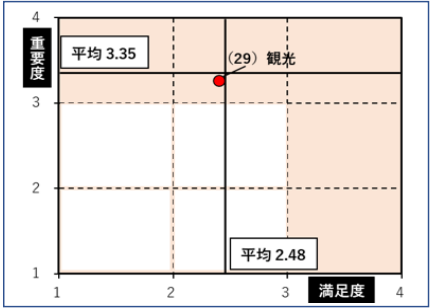
【施策】 4-5 観光

【めざす姿】 観光客と地域住民が共に地域の資源に魅力を感じ、大切にしている

■まちづくりアンケート調査結果(点)

年代別内訳(点)

指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.4	0	0	0	2.48	2.6	2.36	2.38	2.42
今後の重要度	3.26	0	0	0	3.35	3.46	3.31	3.25	3.21



■基本事業(具体的な取組)CHECK①

基本事業番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組 (PLAN)	事務事業 (DO)	効果検証 (CHECK)								
①	観光誘客・情報発信	進行する人口減少や少子高齢化による経済の減少を観光交流人口の増加によって経済を活性化させ、補います	・忍者ゆかりの地との連携や、伊賀流忍者をテーマにした忍者体験施設の開業を契機に、「忍者＝伊賀」となるような、誘客プロモーションやイベントを実施し、情報発信に取り組みます。 ・データマーケティングにより、観光施策に取り組む目的や手段、ターゲットを明確に設定します。 ・県や三重県観光連盟と連携し、海外を含め効果的なタビマエの情報発信を充実させます。 ・関西方面の観光団体や近隣地域と連携し、誘客につながる関西圏でのイベントやプロモーションを実施し、また、広域周遊のしくみを構築します。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>341</td><td>観光地域づくり支援事業</td></tr><tr><td>340</td><td>観光振興管理経費</td></tr><tr><td>339</td><td>忍者市プロジェクト事業</td></tr></table>	整理番号	事業名	341	観光地域づくり支援事業	340	観光振興管理経費	339	忍者市プロジェクト事業	[効果が出ている点] ●PFI方式による伊賀流忍者体験施設「万川集海」がオープンしました。 ●テーマ等や地域に関連する広域観光協議会等に参画し、情報共有及び連携を図るとともに、各協議会等の目的を達成するため、分野横断的な事業を実施しました。 ●観光庁観光地域づくり法人(登録DMO)である一般社団法人伊賀上野観光協会を中心とした公民連携の推進体制を強化し、地域活性化起業人や外部専門家の協力の下で「伊賀上野DMOインバウンドチーム」を編成し、歴史文化資源を活用した旅行・体験商品の造成販売に取り組みました。 [新たな課題] ●観光入込客数は目標のコロナ前水準にまだまだ到達していません。 ●PFI事業者に対するモニタリングを適切に行いつつ、面的な誘客推進に向け連携した取組を進めていく必要があります。
整理番号	事業名												
341	観光地域づくり支援事業												
340	観光振興管理経費												
339	忍者市プロジェクト事業												
②	観光客の受け入れ	地域に根付く魅力ある資源を面的に捉え、活用することで地域に関心を持つ関係人口を増加させ、文化の継承や保全につなげるとともに、にぎわいを創出します	・インバウンドをはじめ観光客が不自由なく周遊できる観光案内看板やサインを整備します。 ・未利用観光施設の利活用をはじめ、有形・無形の様々な歴史的資源を活用し、保存と活用のバランスの取れた持続可能な観光まちづくりに取り組みます。 ・有形無形の観光資源を観光コンテンツとして磨き上げ、観光客の滞在時間を延伸させ、満足度やリピーター率を向上させます。 ・市民が地域の魅力を再発見したり、観光まちづくりに関する知識を得られる機会を創出し、「観光振興ビジョン」に掲げる観光振興への理解を深めます。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>343</td><td>観光施設利活用事業</td></tr><tr><td>342</td><td>観光施設維持管理事業</td></tr></table>	整理番号	事業名	343	観光施設利活用事業	342	観光施設維持管理事業	[効果が出ている点] ●来訪者の満足度及び利便性の向上のため、観光施設及び便益施設の運営・維持管理を行いました。特に当該年度は、数馬茶屋(国登録有形文化財)の利活用を図るための耐震改修工事を行いました。(令和8年度完成予定) ●建設から30年以上経過するだんじり会館の今後のあり方(方向性)などを検討するため、だんじり会館のあり方等検討委員会を設置し、外部の専門家や公募市民など計7名の委員による審議を経て、当該委員会から市長に答申が提出されました。 [新たな課題] ●建物の老朽化進行による修繕箇所の増加や、人件費及びエネルギーコストの高騰等の影響により、施設の維持管理費が上昇しています。		
整理番号	事業名												
343	観光施設利活用事業												
342	観光施設維持管理事業												

◆令和7年度外部評価

項目	評価	所見
(1)効果検証の適正性	B	一部見直しの必要あり ・課題は認識されているが、改善案に具体性がない。 ・取組について、対面での説明では理解できたが、施策評価シートに記載されていない。
(2)事務事業改善案の妥当性	B	一部見直しの必要あり 市としての戦略に基づき改善案を示してほしい。
(3)施策の進捗状況	B	やや良い(概ね順調) 客観的な視点やデータに基づいて取り組むなど、もう少し改善の余地がある。

■横断的な取組の進捗CHECK②

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	伊賀上野DMOやにぎわいパートナーズ(SPC)をはじめ、観光まちづくりに関わる団体などと連携し、公民連携による観光まちづくりに取り組む中で、地域住民の学びや担い手づくりにつながる以下の取組を進めました。 ・上野高校地域探求学習への協力(インバウンドガイド実践会)・イガコレ観光EXPOの開催(住民、事業者向けセミナー)・イガコレ観光EXPOへの参画協力(伊賀市若者会議、三重大学、新天地商店街など)
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	伊賀上野DMOやにぎわいパートナーズ(SPC)をはじめ、観光まちづくりに関わる団体などと連携し、公民連携による観光まちづくりに取り組む中で、地域経済の好循環サイクル構築や地方部への誘客につながる以下の取組を進めました。 ・歴史的資源を活用した観光まちづくり(NIPPONIA伊賀上野を中心とした新たな旅行体験商品の開発)・新たな観光ガイドMAP(伊賀イド)の作成・新たな観光拠点の整備(伊賀流忍者体験施設【万川集海】)
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	令和8年度に策定を予定する「伊賀市観光振興ビジョン後期アクションプラン」の現状分析のため、地域住民や市内外の観光関連事業者を対象とした意見交換会「NEXT TOURISM座談会」を計5回開催し、49名の参加者から意見を聴取しました。

■成果指標進捗度

指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	目標値	成果指標の進捗度	所管課	事務事業改善案(ACTION)	基本事業の進捗
I	観光入込客数(人)	観光施設への入込客数(観光施設より報告)(4～3月で集計)	単年	R6 1,654,131人	R7 1,583,858人				R10 2,008,000人	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	産業農林部観光振興課	●PFI事業者に対するモニタリングを適切に行いつつ、面的な誘客推進に向け連携した取組を進めていきます。 ●計画どおり進めます。	○計画通り進めている(85%以上100%未満)
I	リピーター率	来街者アンケート(伊賀上野DMOが実施)により計測(4～3月)	単年	R6 52.37%	R7 58.3%				R10 60%	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	産業農林部観光振興課	●建物の老朽化進行による修繕箇所の増加や、人件費及びエネルギーコストの高騰等の影響により、施設の維持管理費が上昇しているため、より効率的な維持管理を進めていきます。 ●だんじり会館のあり方検討に係る答申に基づき、今後の利活用の方針を今後2～3年間で取りまとめます。	○計画通り進めている(85%以上100%未満)
II	観光消費額単価(円)	来街者アンケート(伊賀上野DMOが実施)により計測(4～3月)	単年	R6 13,719円	R7 16,174円				R10 16,676円	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	産業農林部観光振興課		

その他の意見等

「計画どおり進めます」ではなく、より具体的な取組について分かりやすく記載する必要がある。

施策評価シート

分野

4. にぎわいをつくる

【取りまとめ部局】

地域力創造部

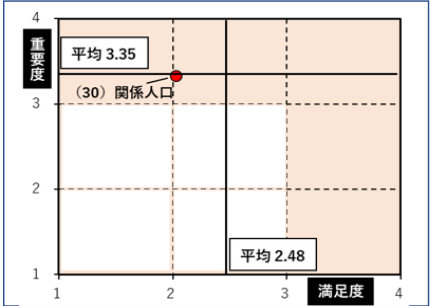
【施策】 4-6 関係人口

【めざす姿】 若者や移住者に選ばれる

■まちづくりアンケート調査結果(点)

年代別内訳(点)

指標	R7	R8	R9	R10	R7平均	20代以下	30～40代	50～60代	70代以上
現在の満足度	2.02	0	0	0	2.48	2.13	1.85	2.04	2.12
今後の重要度	3.33	0	0	0	3.35	3.55	3.37	3.39	3.2



■基本事業(具体的な取組)CHECK①

基本 事業 番号	キーワード	めざす姿	具体的な取組(P LAN)	事務事業(D O)	効果検証(C HECK)								
①	地域創 生	若者の定住意識を 高め、関係人口と ともに地域課題を 解決します	・本市全体を大学生や研究者が行きか う研究のフィールドとし、大学等との連 携により、地域課題の解決に取り組みま す。 ・ふるさと納税(個人版・企業版)などを 活用し、地域の魅力や取組を広く発信 し、関係人口を創出・拡大します。 ・地域、高校等、行政などが連携し、未来 の伊賀市を担う若い世代の人材育成を 継続的に取り組みます。 ・国の制度などを活用しながら、地域課 題の解決につながるローカルスタート アップの支援のしくみを構築します。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>603</td><td>ふるさと応援事業</td></tr><tr><td>602</td><td>三重大学伊賀連携フィールド事業</td></tr><tr><td>601</td><td>地方創生推進事業</td></tr></table>	整理番号	事業名	603	ふるさと応援事業	602	三重大学伊賀連携フィールド事業	601	地方創生推進事業	[効果が出ている点] ●地域課題の解決につながるローカ ルスタートアップの支援制度を創設し ました。(令和8年度は産業政策課) [新たな課題] ●若者会議は令和8年度からの第5 期の活動がスタートします。
整理番号	事業名												
603	ふるさと応援事業												
602	三重大学伊賀連携フィールド事業												
601	地方創生推進事業												
②	移住	伊賀市への移住を 促進します	・移住コンシェルジュによるきめ細やか な相談を行います。 ・SNSを活用したプロモーションや、他 分野との連携による実体験型のセミ ナーを開催し、本市の魅力を広く発信し ます。 ・若者世代や子育て世代をターゲットに した取組を進めます。 ・地域おこし協力隊を積極的に活用し、 地域の活力向上と隊員の定住を図りま す。	<table><tr><th>整理番号</th><th>事業名</th></tr><tr><td>600</td><td>移住・交流推進事業</td></tr></table>	整理番号	事業名	600	移住・交流推進事業	[効果が出ている点] ●移住コンシェルジュが移住から定 住にかけて寄り添う相談体制を構築 し、移住希望者の希望に沿った案内 である「くると伊賀巡り」や、移住相 談などに関してきめ細やかな対応を 行っています。 ●移住相談会や移住交流会、移住プ ロモーションを行うことにより、移住 者の獲得に繋がっています。 ●若者世帯や子育て世帯の移住者を 確保するための補助制度(若者・子育 て世帯移住促進家賃支援補助制度、 若者・子育て世帯促進家賃支援補助 制度)の開始に伴い、移住希望者か らの補助制度に関する問い合わせと補 助制度の利用者が増加しており、移 住者の獲得に繋がっています。				
整理番号	事業名												
600	移住・交流推進事業												

◆令和7年度外部評価

項目	評価		所見
(1)効果検証の適正性	B	一部見直しの必要あり	移住促進により関係人口が増加した結果、人口増につながった等の評価が欲しい。
(2)事務事業改善案の妥当性	B	一部見直しの必要あり	本当に施策内容・事業内容に改善の余地はないのか。
(3)施策の進捗状況	B	やや良い(概ね順調)	関係人口を増やす取組、若者の関心を高める取組にはまだ創意工夫の余地がある。

■横断的な取組の進捗CHECK②

みんなのテーマ	進捗状況	評価の理由
豊かなひとづくり 「こどもが育つ、大人も育つ」	3(計画通り進めている)	・新たな移住者が前年度比160%増(90人→144人)となりました。 ・地域おこし協力隊については、令和7年度に新たに2名の隊員の新規加入があり、地域の課題解決に関する活動の拡大に繋がっています。
継承と変革 「持続可能なまちを未来に引き継ぐ」	3(計画通り進めている)	・伊賀市の魅力を発信するためにPR動画を制作し、SNSで広く発信を行いました。 ・伊賀市移住ポータルサイト「iga-style」やInstagram「(ええやん伊賀)」にて移住に関する情報の発信を行うことにより、関係人口の増加と新たな移住者の獲得等につながりました。
これからの自治 「つながりを結び直す」	3(計画通り進めている)	・IGABITO育成事業の展開により、市内高校生の地元に着用を持つ割合が増加しています。 ・伊賀市若者会議メンバーによる市政参画事業(10事業、参加者:39人)を行い、地域の担い手となる新たな人材育成と発掘を行いました。

■成果指標進捗度

指標番号	成果指標名	成果指標の説明	単年／累計	現状値	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)	2028(R10)	目標値	成果指標の進捗度	所管課	事務事業改善案(ACTION)	基本事業の進捗
I	高校生の地域への愛着度	IGABITO育成における高校生へのアンケート結果／IGABITO育成における高校生アンケート項目のうち「学校のある地域のことをどう思っていますか」の問いに対し、「好きである」「どちらかと言えば好きである」と回答した生徒の割合	単年	R6 59.5%	R7 61.84%				R10 65%	○ある程度進んだ(85%以上100%未満)	地域力創造部 交流政策課	●特に新たな問題は発生していないため、計画どおりに進めます。	○計画通り進めている(85%以上100%未満)
I	相談を通じた移住者数	移住コンシェルジュによる相談を通じた移住者の人数	累計	R6 698人	R7 842人				R10 1,100人	◎目標以上に進んだ(100%以上)	地域力創造部 交流政策課	●特に新たな問題は発生していないため、計画通り進めます。	○計画通り進めている(85%以上100%未満)

その他の意見等

・基本事業①「地域創生」の効果検証(CHECK)で、「新たな課題」の若者会議の第5期の活動が予定どおりならば課題ではないため削除した方がよい。

・「関係人口」と「移住」の違い、両者のつながりを意識した評価が欲しい。関係人口は移住・定住しないままで伊賀市との関係を深く持ってくれている人であり、そうした人が増えたか、また関係が深化した結果、移住へとつながったか等を評価して欲しい。